

市民記者が行く! 広報サポーターレポート



歴史講座 「絵図から見た西尾城」

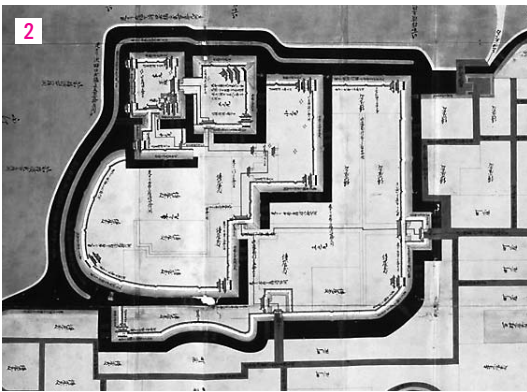


広報サポーター
鍋田哲雄さん(細池町)

子どもころから親しんできた西尾城跡は、その後、一角に旧近衛邸が京都から移築されるなど、歴史公園としての整備が進められています。11月22日にその旧近衛邸で開催された歴史講座「絵図から見た西尾城」の



1



1. 歴史公園内にある旧近衛邸。この日は紅葉真っ盛りでした。2. 鮮明に描かれた江戸時代前期の西尾城絵図

模様をレポートします。

会場に入ると男性28名、女性5名、合計33名の参加者が期待に満ちた表情で講演の開始を待っていました。講師は考古学が専攻という市教育委員会文化振興課の浅岡優さん。プロジェクトを使用している話は、なかなかめりめりが利いて、興味を引く内容でした。

始めに文献史料についての説明がありました。史料には一次史料と二次史料があり、前者は同時代に書かれたものをいい、

後者は後の時代になって書かれたものことで、当然、前者のほうが価値が高いということでした。西尾城については、一次史料として『家忠日記』が、二次史料として『鶴城記』や『西尾城郭覽書』が挙げられます。続いて城の絵図を見るときに着眼点について説明がありました。絵図を見る

ときは、ただ漫然と見るのではなく、原本であるか模写であるか、天守がどう描かれているかなど、目的を持って見るのが大事だと知りました。

また、西尾城の新しい事実として、内閣府がまとめた『1707宝永地震報告書』について解説がありました。江戸時代中期に起きたこの地震は、遠州灘から紀伊半島沖を震源とするもので、この地方でも大きな被害があったようです。時の大老柳沢吉保の公用日記『楽只堂年録』によれば、西尾城は、天守の大破、櫓4か所の大破、侍屋敷の破損26軒、町家の破損138軒などの被害が明らかになったそうです。講演の後、参加者はおいしい



3



4

3. 参加者の皆さんは熱心に講師の話に耳を傾けていました。4. 講演の後、西尾の抹茶を飲みながら、西尾城の歴史話に花を咲かせていました。

抹茶とお菓子をいただきました。中には、講師の浅岡さんに質問を投げ掛けている方も見受けられました。残念ながら明治時代の始めに取り壊されてしまった西尾城ですが、絵図を見ながら在りし日の城の姿を想ったものでした。

広報サポーターは公募により選ばれた市民記者です。これからも市民の目線で市内各地のイベントなどを取材していただきます。